

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第三中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0812  
稲城市矢野口3043

E-mail inagi3j@educet.plala.or.jp

Website https://www.fureai-cloud.jp/inagi3j

生徒数 男子 230名 女子 233名 合計 463名  
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は平成25年9月30日にユネスコ・スクールとして承認された。  
今年度、本校では「持続可能な社会の実現を目指して、積極的に人、社会、自然とかかわり、行動できる力を育むこと」をESDの目標とした。  
具体的には、人権教育、防災教育、日本の伝統文化教育を柱に、①学校独自の「稲城三中ESDテキスト」を用いた学習、②障害者理解に係る教育、③地域防災に係る教育、④日本の伝統文化に係る教育等を行った。

### ①学校独自で作成した「稲城三中ESDテキスト」を用いた学習

本校では、ESDを体系的に指導することができるようにするため、各教科や道徳、学校行事等のESDに係る内容が「人権」「環境エネルギー」「伝統文化」「国際理解」「防災」の五つの項目ごとにまとめられた「稲城三中ESDテキスト」を活用した教育活動を実践している。なお、本テキストの内容は定期的に見直し、工夫・改善を図っている。

### ②障害者理解に係る教育

ESDにおける人権教育とオリンピック・パラリンピック教育の障害者理解を関連させ、ボッチャの体験学習会を実施した。当日は、稲城市スポーツ推進委員の方に必要な用具の用意やルールの説明、審判などをお願いした。また、

体験学習会に先立ち、事前学習としてオリンピック・パラリンピック学習読本を活用して、パラリンピックの歴史や起源等についても学習した。さらに、ボッチャのパラリンピック日本代表選手のインタビューを収めた視聴覚教材を全校生徒で観賞するなどして、障害を抱えた方が生き生きと活躍することのできる社会の実現へ向けて生徒一人一人ができることを考え、発表する場等を設定した。

### ③地域防災に係わる教育

地域防災への意識を高め、地域の中で主体的に行動できる人材を育成するため、全校集会等の場面を捉え、自治防災本部長から、地域防災での心構えや、地域の人材として期待することなどの講話を伺った。

また、12月2日には、地域防災訓練を実施した。1年生は体育館で避難所設営訓練と学校敷地内に設置された災害用の井戸の利用訓練、2年生は三角巾や止血体を利用した応急救護訓練、3年生は炊き出し訓練と放水訓練に取り組んだ。生徒たちは、訓練をとおして、稲城市消防本部や、地域の自治会組織、日本赤十字社、本校PTA及びOBなど、有事の際には地域防災の中核となる大人との連携体制について学ぶとともに地域の共助の担い手となるための具体的な行動内容について理解を深めた。

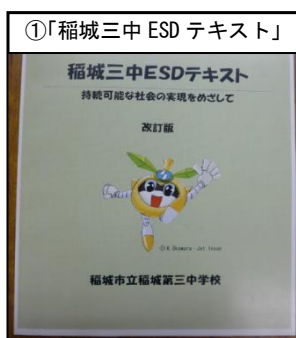
### ④日本の伝統文化に係わる教育

日本の伝統文化を学びながら他国の伝統文化と比較することで「国際理解」にも繋がるとの視点に立って、以下の取り組みを行った。

家庭科の授業では、日本の伝統的な衣食住などについて学習を進める中で、地域の方を多数招き、実際に浴衣の着方やたたみ方などを地域の方から教わる浴衣着付け体験を実施した。

音楽科の授業では、日本の伝統楽器である箏の演奏に取り組んだ。また、東京都教育委員会が実施しているJETプログラムで招いた外国人留学生と授業で交流し、生徒が演奏方法を教えることで、日本の文化を外国に伝える取り組みも行なった。

美術科の授業において、地域で和菓子店を営む方を講師としてお招きし、和菓子作りを行なった。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>○本校が独自に作成した「稲城三中ESDテキスト」 ○オリンピック・パラリンピック学習読本 ○パラリンピアンインタビューを収めた視聴覚教材</p>
-------------------------------------------------------------------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとして、人権、環境・エネルギー、伝統文化、国際理解、防災を柱として、ESDテキストを活用し、各教科、学校行事等を相互に連携させたESDを推進する。

年に2回（6月と2月）、各教科や道徳、総合的な学習の時間に等におけるESDの指導内容について点検と検討する機会を設けている。このことにより、教員一人一人がESDの視点を持ちながら教科指導等にあたらうとする意識の啓発や指導方法の工夫改善につながっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD全体指導計画及びESDカレンダーを作成し、全校体制で指導にあっている。また、本校独自の「稲城三中ESDテキスト」を作成、活用することで、日本文化、国際理解、人権、環境・エネルギー、防災等について各教科や総合的な学習の時間等で体系的な指導体制を構築している。

また、PDCAサイクルを活用し、ESDに係る取組状況を把握し、次年度向けにESDカレンダーの見直し等を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年11月～12月に教育活動全般の振り返りと次年度の教育課程編成等に向けた職員向けの内部評価と保護者や地域向けの外部評価を実施している。

外部評価においては、地域や外部人材等と連携した教育活動の実践について一定の評価を得ている。しかし、今後は外部人材と連携した取り組みの活動の様子やその学習成果等について、情報を発信していく必要があると捉えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

稲城市では、市の施策としてESDの推進に取り組んでいる。各校から校内で中心となってESDを推進するESD推進委員を指定し、年間6回にわたり、研修や情報交換等を行っている。

また、毎年1月には市内各校が模造紙により、ESDの活動報告を行い、市内各校の作品展示会に合わせて、市民へ向けても展示している。

推進員会で、市内各校でも取組について共有することで、自校の取組の改善を図る手立てとしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

稲城市では学校と地域を深めるために、学校支援コンシェルジュが活躍している。本校では、学校支援コンシェルジュが2年生で実施している職場体験学習の生徒受け入れ先の連絡や調整あたっている。また、各教科等で地域人材を外部講師としてお招きする際には、連絡や調整の役割を担っている。

また、防災学習においては、自治防災組織の方の協力の下、防災講話を実施している。さらに、今年度は稲城市消防本部防災課や日本赤十字社等と連携した地域防災訓練を実施した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

年間6回に渡る稲城市ESD推進委員会の場で、稲城市内のユネスコスクールにおけるESDに係る取り組み状況の報告等を行った。

今年度は、1月の委員会において、各校が昨年度より重点をおいて取り組んだ内容について紙面を活用した発表を行うなどして、情報の共有を行った。

今後は、稲城市外や他道府県のユネスコスクールとの交流や情報収集、ネットワークの形成に努めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

学校独自で作成した「稲城三中ESDテキスト」の中に、学区内等で行われるボランティア活動を一覧にして示すことで、生徒が見通しをもってボランティア活動に取り組む姿勢が芽生えた。

各教科や防災訓練などの場面で地域人材等と連携を図り、その成果を学校行事や学校便り、HP等を利用して情報発信することで、地域とより強固な連携体制を築くきっかけとなった。

毎年、ESDの取り組み状況を把握することで、教員一人一人にESDの視点をもって教科等の指導にあたらうとする意識が芽生えつつある。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度実施した地域防災訓練を継続し、地域と学校が連携した防災体制をより強固なものにしていきたい。

また、平成30年度は東京都が推進するオリンピック・パラリンピック教育と関連させながら、人権教育及び環境エネルギー教育に重点を置いて以下の二つの活動を計画している。

①障害者等介護体験学習

生徒が障害者と介助者の両者の役割を経験し、お互いに助け合う活動を通して、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の実現を目指す態度を養う。

②地域清掃活動

生徒とPTA、地域住民等が連携して学区内の清掃活動に取り組み、生徒が環境や再生可能なエネルギーについて考え、行動するきっかけとする。

③稲城市環境課と連携した環境教育

SDGs等国际的な枠組みを理解するとともに、稲城市が行っている環境保全活動等について、市担当者の講演を聞くことで、生徒自身ができる環境保全活動について考えさせる場とする。